

広陵町教育委員会だより

令和2年度 1月号

1月14日 発行

広陵町教育委員会

北葛城郡広陵町南郷583-1

TEL0745-55-1001 文責・編集 植村



新しき 年の始めの 初春の
今日降る雪の いや重(し)け吉事(よこと)

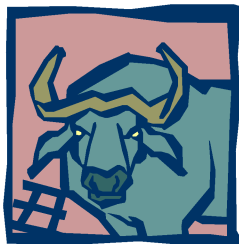
1月の万葉集 万葉集 巻20-4516 作者: 大伴家持
(新年を迎え、初春も迎えた今日、降る雪のように良い事もたくさん積もれよ)

「辛丑」の年に思うこと!

年が改まってから早、2週間が過ぎました。昨年、コロナ禍の中、学校教育や子育て支援をはじめ、生涯学習、スポーツ振興、文化財保存、図書館活動等の教育委員会の諸事業については、十分な活動もできない中であっても、ご理解とご協力、そしてご支援を賜りましたことに心より厚くお礼申し上げます。



令和3年(2021年)は丑年です。正式には辛丑(かのとうし)で、「辛」は思い悩みながら、ゆっくりと衰退していくことや、痛みを伴う幕引きを意味します。また、「丑」の字は、発芽直前の曲がった芽が種子の硬い殻を破ろうとしている状態で、命の息吹を表しています。これを合わせると「緩やかな衰退、痛みを伴う幕引きと、新たな命の息吹が互いを生かし合い、強め合うこと」を意味しますので、辛いことが多いだけ、大きな希望が芽生える年になることを指し示しています。



さらには、十二支の動物で表すと「牛」であり、月で言えば陰暦の12月、時刻は午前1時~3時頃、方角は北東微北となっています。また、牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物であり、大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢(耐える)」、「これから発展する前触れ(芽が出る)」というような年になるといわれています。

これらのことから、現状に照らしてみますと、昨年からのコロナ禍が続く中、何とか耐え忍び我慢しながら、牛歩のごとく少しずつ歩みながら希望が持てる夢ある年にしていきたいものです。

しかしながら、年末年始から、全国的にこれまで以上に新型コロナウイルス感染症が拡大し、1月7日には首都圏である1都3県に再び緊急事態宣言が発令されました。その翌日に全国で新規感染者が7,800人を超える国内最多を記録しました。

また、13日には、大阪、京都、兵庫の関西3府県に加え、愛知、岐阜、栃木、福岡県にも緊急事態宣言が出されました。

これから先、この新型コロナウイルス感染症がさらに拡大するのか、それとも収束に向かうのかは全く不透明な状況ですが、2月末にはワクチン接種も始まると言われていますのでそれを信じて、不要不急の外出自粛とともに3密回避とマスク着用、手洗いの徹底をさらに進めていくことが何よりも大切な取組になるのではないのでしょうか。

とにかく、「辛丑」の今年、辛いことに耐え忍びながら、夢ある希望の年にしたいものです。皆さん、がんばりましょう!!

教育委員会の取組

つながる食育の推進事業に取り組んでいます!

広陵町教育委員会では、今年度、文部科学省と奈良県教育委員会からの研究指定を受けて、「令和2年度 つながる食育推進事業」に取り組んでいます。北小学校の中島栄養教諭、広陵中学校の柴田栄養教諭の指導の下、それぞれの学校の給食を中心に、学校や家庭、地域とのつながりの中で様々な食育の取組を進めています。特に、地産地消として地元の食文化や奈良県産の食材を取り入れた献立をはじめ、日本各地や世界各地の食文化を取り入れた献立など多種多様に工夫を凝らし、栄養バランスに配慮した給食による食育と学校が地域や家庭とつながる中で地域の食材を知り、バランスのよい食事を自分で調理できる実践力を育てることを目的とした食育活動を進めています。



これを読んでおられる皆さんも、広報こうりょうの11月号の特集「学校給食」をご覧になられたと思います。広陵町の特産である「なす」を使った給食を、満面の笑顔でおいしそうに食べている児童の表紙をはじめ、広陵中学校の陸上部を対象とした柴田先生によるスポーツ栄養指導や北小学校の6年生を対象に中島先生による「未来を開く朝ごはん」の食育授業、3年生のなす農家見学を通して生産者の工夫や苦勞を生の声で聴き、食材への理解を深める記事等、「たくさんの想い いただきます。」という内容を掲載させていただきました。

また、3学期が始まってから、奈良県教育委員会と広陵町教育委員会の連名で作製した、「令和2年度 つながる食育推進事業」のクリアホルダー(表: 作って食べよう地域の野菜! 裏: 地域と家庭がつながる地産地消のすすめ! 挟み込み: 広陵町のなす等を使ったレシピ)を各小中学校の児童生徒に配付させていただきました。ご家庭でも「食育」という言葉を意識して、主食、主菜、副菜、汁物がそろった朝ごはん等、望ましい食習慣の確立に取り組んでもらえればと思います。



いつもと違う成人式!

1月11日(月)の成人の日に、広陵中央公民館かぐや姫ホールで令和3年広陵町成人式を開催しました。第三波となる新型コロナウイルス感染症拡大が続いている中での成人式であり、今回は3密等を避けるための感染予防対策として、午前、午後



の二部制での成人式でした。午前に真美ヶ丘中学校区、午後に広陵中学校区での成人の皆さんを対象として、来賓の皆様も主催者側も極力出席者を控えた中でのいつもと大きく違う成人式となりました。

今年、町内で成人になられたのは337人で、真美ヶ丘中学校区が185人中148人、広陵中学校区が152人中115人が参加していただきました。

オープニングイベントとして広陵金明太鼓の皆さんが、勇壮かつ心にしみる「ほむら」という曲の演奏をしていただき新成人へのお祝いの気持ちを伝えていただきました。

式の進行は、一部は実行委員の銭塚さんと町田さん、二部は出井さんと森本さんが司会者としてアドリブも入れながら、スムーズに進めてくれました。

山村町長は式辞の中で、作家の伊集院静さんの、「今日から大人。そんなはずはない。大人って何だろう。大人になる方法。そんなものはない。どんな大人になりたい。カッコイイ



大人。優しそうな大人、そりゃ外見だ。大人は中身が作る。今、君の身体の中にある真っ白なものが、君の意志でカタチを作って行くんだ。どんな人にも、どんなこともできる。それが君たちの可能性だ。それしかないが、実はそれはスゴイことなんだ。」の文を引用され、今日から、「自分がどんな大人になるのか」「そのためにはどうしたらよいか」、一人ひとりが自ら問い立てて、自ら答えを求めて邁進し、自分が考える大人像を見つめて行動してほしいとメッセージを贈られました。

私は、お祝いの言葉で、今年のNHK大河ドラマ「青天を衝^つけ」の主人公となる澁澤榮一さんの『夢七訓』という詩を採り上げ、「幸せを求めようとする人は、夢をなくしては絶対だめだ。」そして、自身が思い描く目標というか大きな夢を持ち続け、その夢の実現に向かって邁進していただきたい。また、これまで育ててくださったご家族、支えてくれる友達や周りの方々に、きっちりと感謝の気持ちを伝えるとともに人としての優しさや思いやりの心、感謝の気持ちを持ち続けてほしいとエールを贈りました。

二十歳の誓いでは、一部が門田さんから、「この二十歳という人生の節目、今だからこそできることを精一杯楽しむことを二

十歳の誓いとします。さらには、今まで支えてもらった先生方への感謝の気持ちを持つこととそれ以上に今日だからこそ家族に勇気を出して感謝の気持ちを伝えたい。」という熱い想いを話してくれました。

また、二部の玉井さんから、「私たちが生まれ育った広陵町が、より発展していけるように、使命感を持って地域社会に貢献していきたい。そして、社会人としての仲間入りを果たしたことを自覚し、一つ一つの言動に責任を持ち自分の夢や個々に持つ目標を叶えていけるように、日々努力することを誓います。」と新たな熱い決意を表明してくれました。



その後、それぞれの中学校における卒業アルバムを基にした思い出場面の映写とビデオレターとして、中学校の恩師のビデオメッセージに一喜一憂していました。

今年の成人式は、何かと規制されたいつもと違うコロナ禍の中での式でしたが、主催者として人生の節目を無事お祝いできたのが何よりもうれしいことでした。

詩のコーナー

元 日

大木 実

あかく燃えているいろりの火
その火をかこむ父と母
外はいつか雪にかわった
しずかにくれたきょうの日よ

さっきまではしゃいでいた
小さな妹は母のひざに
枕もとにかるたを置いて
早ねの弟もねてしまった

希望をもって一日を

新しい日記をひらいて
まっしろな最初のページにぼくはしるす

未来に向かって一年を

山のなかのぼくたちの家
ここにあるぼくたちの生活
ああ 胸にわくこの思いは何だろう

たのしく しずかに おごそかに

